



一般社団法人

富山県作業療法士会 ニ ュ ー ス

令和3年度 No.3

第138号 令和4年1月20日

発行 一般社団法人
富山県作業療法士会
会長 齋 藤 洋 平
印刷 (株) チューエツ

富山県作業療法士会ホームページ <https://toyama-ot.org/>

富山県作業療法士会会員数：673人

第20回東海北陸作業療法学会を終えて

実行委員長 厚生連滑川病院 水島 朝範

令和3年12月12日(日)第20回東海北陸作業療法学会が富山国際会議場にて、初となるハイブリッド形式で盛会に開催されました。当日参加者はスタッフを含め160名と来場を県内者に限定しましたが、多くの方に来ていただくことができました。中村協会長をはじめ、各講師の先生方が会場でご登壇され、その講演内容はLIVE配信されました。(自分のスマートフォンでそれを確認した時には感動で涙が出そうでした。)

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていたことに加え、天候に恵まれたこと(次週には積雪しました)など会期が奇跡的なタイミングであったこと、そして何より各部会・各系の皆様、学会参加を支えてくれた同僚の皆様など、数多くの方々のご理解・ご協力があったからこそ現地開催が実現したのだと、心より感謝を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染状況がいつ変化するかわからない状況下で、開催に至るまで皆様には大変な不安とご負担をおかけしたと思います。事前打ち合わせや準備・リハーサル回数が少ない中、準備や進行スケジュールの変更は学会直前にまで及びました。しかし、実行委員の皆様をはじめ、多くの方のお力添えと入念な準備、迅速かつ柔軟な対応力があったからこそ当日の学会運営やLIVE配信も最後まで滞りなく進行することができたのだと思っています。中でも学会HPの立ち上げから各講演・演題のデータUPなど、オンデマンド配信に向けて昼夜を問わずHPの更新に多大な労力を注いでいただいたHP系の皆様には改めて感謝を申し上げます。また現地開催後も、演題のQ&A対応や参加費の確認・支払い担当の財務の方など、引き続き係に携わってくださった皆様にも感謝申し上げます。その結果、参加登録は340名、オンデマンド配信は令和4年1月12日まで行い、多くの方に視聴していただきました。

コロナ禍という大変厳しい状況ではありましたが、富山県作業療法士会が中心となり県士会員一丸となって創った学会であったと思います。学会テーマであった『未来を切り開く作業療法～研鑽からの創造～』の通り、1人1人が改めて『研鑽』について考える機会となり、『創造』へとステップアップできた学会だったとも思っています。

最後になりますが、学会や運営に関してアンケートを行いますので、皆様忌憚のないご意見をお聞かせください。学会へのご協力、誠にありがとうございました。



記念撮影：当日運営に関わってくれた県士会員

県士会員の皆様へ感謝申し上げます

～第20回東海北陸作業療法学会に携わって～

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 学術局長 桐山 由利子

2021年があとわずかとなり、雪かきや新年の準備に慌ただしい中、どのように皆様へお伝えしようか、頭の中がなかなか整理されませんが、この学会運営に携わって感じたことを書いてみたいと思います。

齋藤県士会長より、「重要な役をお願いしたい」と言われ、「学術局長」を引き受けたのは2019年5月のことで、その頃、私にとって「ずーむ」アプリは異次元の物でした。2020年に開催予定だったはずの学会はCOVID-19感染の影響を受け、1年延期となりましたが、「ニューノーマル」を構築する中で「Zoom」は大切な道具へと変化しました。コロナ禍であっても運営委員が一致団結し、学会の盛会に向かって、ZoomやLINEでの打ち合わせを積み重ねることで、委員内の協働が自然と増えていったと感じます。また、演題査読、企画展示、会場設営、抄録作成、財務、渉外など学会運営にご協力頂いた皆様や、演題登録を頂いた皆様からは、例年とは違う状況にもかかわらず真摯なお気持ちやお言葉を頂戴したことで、前に進む力が頂けたと感じます。

演題については締め切りを1か月延長させて頂いたことで、74演題が集まりました。日本作業療法学会に準ずる本学会審査基準で査読が行われた結果、全ての演題が採択されたことや、22演題が富山県からの登録であったことは、私が学術局長としての務めを果たす上で非常に勇気づけられました。

演題発表はHP掲載というスタイルをとったため、演者の皆様は、データーの作成からアップロードまで多くの手間と時間を費やしたのではないかと察しますが、無事に予定どおりに進めていけました。これは偏に演者の皆様のご理解ご協力があったからだと思い、感謝の気持ちでいっぱいです。

幸運にも感染状況が落ち着いていたことで、国際会議場を貸し切ったのハイブリッド学会が実現しました。演題発表においては指定演題発表を会場で行うこととなりました。これはOT兄弟（運営委員のOさんTさん）のご尽力があったからこそと思います。お二人が持っている知識と技術が、これからの県士会を救うと言っても過言ではありません！

余談になりますが、今回、私は学会マスコットキャラクターもデザインさせて頂きました。齋藤学会長の発案から生まれた「ささらで舞う富作さん」です。OT愛・作業を楽しむ・富山を愛することを表現してみました。

3年近く携わった中でのつながりは私にとって尊いものとなりました。これからも微力ながら貢献できるよう、精進していきたいと思います。



学会マスコットキャラクター
ささらで舞う富作さん



東海北陸作業療法学会に参加して

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 後藤 有香

令和3年12月12日に、富山国際会議場で開催された第20回東海北陸作業療法学会に参加させていただきました。本学会は、コロナ禍で1年延期となっていましたが、今回、“現地+オンデマンドのハイブリッド”という初めての形式で学会開催となりました。テーマ『未来を切り開く作業療法～研鑽からの創造～』のもと、多数の講演や講座、研究・演題発表がありました。

私自身も、『回復期の脳梗塞患者にADOC-Hを用いたtransfer packageを実施し、麻痺手の行動変容が得られた事例』について、発表をさせていただきました。第20回という節目の学会において、現地の会場で発表させていただき、優秀発表賞という素晴らしい賞までいただいたことを大変光栄に思っています。質疑応答では、多くの先生方からご指摘、ご意見をいただき、今後の発表・臨床での参考となりました。

これまでにない学会形式で、新型コロナの感染状況が読めない中、学会当日まで不安に思うこともありましたが、富山県内における感染状況は比較的落ち着いており、当日は県内の作業療法士に限定して来場できる形式で、指定演題も従来の口述発表に近い形で発表させていただきました。

現地では、臨床実習や勉強会など、今までお世話になった他病院・施設の先生方や、大学の先輩方・同期と会場で久しぶりに再会することができ、近況や臨床についてお話できる有意義な時間を過ごすことができました。

オンラインでは、当日は緊張して頭に入ってこなかった講演や、時間が被っていて聴講できなかった講演・講座を、学会後にオンデマンドで改めて見ることができ、いつでも何度でも配信を観ることができるところが、今までの学会ではできなかった大きなメリットだと感じました。また、コロナ禍で県外の方は来場できない形式であったため、直接会うことは叶いませんでしたが、後日オンデマンド配信を観て連絡をくださる先生方もおられ、貴重なコメントや質問など、活発な意見交換が行える大変充実した学会でした。

講演では、「自己研鑽と自分自身の未来」というテーマで、能登真一先生のご講演がありました。その中で、作業療法の副作用は“過用と誤用”の他に“不作為（本来実施されるべき正しい治療がセラピストの無知により実施されない）”もある、というお話があり、自分の臨床での介入についてとても考えさせられました。また、“夢中に勝る努力なし”という言葉や、心の持ちようで未来が変わること、学習は熱心な興味や好奇心で始まったものでなければ永続的に続かない、というお話を聞いて、自分のありたい未来に向けて、常に探求心・向学心を持つことが大切だと思いました。

最後に、今学会を通じて、改めて「研鑽」について考える良い機会となりました。今後もさらに研鑽を積み、新しい未来を想像できる一助となれるよう、日々の臨床・研究を頑張っていきたいと思います。



その他の写真も学会HPの学会写真集に掲載してあります。是非ご覧ください。

身体障害部会研修会に参加して

射水市民病院 出口 裕基

令和3年9月28日(火)、身体障害部会のZoomによるWeb研修会に参加させていただきました。富山大学付属病院の服部憲明先生による「脳卒中の上肢ロボット訓練装置を用いた作業療法」というテーマの研修会でした。

講義の前は、ロボットによるリハビリは臨床の中でも触れたことがなく、具体的な印象が湧きませんでした。講義ではロボット訓練の話だけではなく脳卒中後の上肢機能回復の現状について文献を交えてお話しいただき、私自身脳卒中後の対象者と関わる際は今までの経験からなんとなく予後を決めてしまうことがあったため、様々な評価の指標からみた機能改善の現状を知ることが出来た貴重な講演でした。

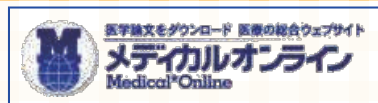
本題のロボット訓練のお話しでは、先ほどの様々な指標を用いたロボットによるリハビリを行った効果の実情や富山大学附属病院で使用されている機器の紹介、今後ロボット実践をしていくに向けてなどの内容でした。講義の中でロボットを使用するメリットとして、主に療法士の負担軽減やパフォーマンスを評価する際の指標の統一化を図る事が可能であることや治療のバリエーションを増加させ、対象者のモチベーション向上を図ることができるため、主体性をもってリハビリに取り組むための一助とすることができるとご教授いただきました。私自身普段の対象者様への関わり方を振りかえるとバリエーションに富んだプログラムを提供できていないと反省する事があるため、プログラムのバリエーションを増やす一つの手段として興味を持ちました。

今回の研修を通して、ロボットによるリハビリが具体性を持ち自身の観点が増えたと同時に、脳卒中のリハビリの現状や、対象者が主体性をもってリハビリへ取り組む事ができるよう関わり方を工夫する必要性を学ぶ事ができたので、今後の臨床へ活かしていきたいと思います。



福祉厚生部からのお知らせ

便利な文献検索サイトです。
ぜひご利用ください。



利用
期間

2021年7月～2022年3月

対象

富山県作業療法士会 会員

利用
方法

<http://www.medicalonline.jp/>
にアクセスします。

ID/パスワードを入力して、ログインしてください。
「ようこそ富山県作業療法士会様」の画面で、文献検索・ダウンロードが可能になります。

- ① 「全文ダウンロード」は**ひとり5文献**までとします。期間中のダウンロード数に、上限がありますので、お早めに。
- ② 文献の内容はアブストラクト（抄録：先頭文字400字程度）で確認できます。アブストラクト（抄録）の確認だけなら、フリーです。ダウンロードとみなされません。
- ③ 注：パスワードは、発行された県士会員以外は利用させないこと。

応募
方法

下記のメールアドレスまたはQRコードでお申し込みください。
ID/パスワードを返信いたします。

QRコードは
こちら▶▶▶



メールの場合▶▶件名「メディカルオンライン希望」／本文には、①氏名②所属が必要。

問い
合せ

toyamaOTfukurikousei@gmail.com 釈永 祐貴（グリーンヒルズ若草病院）TEL0766-53-8811

※業務の都合上、返信にお時間かかる場合がありますので、ご了承ください。

2021年度

「オンライン新人交流会」

活動報告

西能みなみ病院 折橋 佳那



「オンライン新人交流会」の主な内容は、①齋藤県士会長による講演「これからの作業療法について」、②新入会員の自己紹介、③質問コーナーでした。

①では、「リハビリの際には身体機能に着目しがちですが、OTの求められる活動は多岐にわたるため、特に活動と参加に目を向けることが大切」というお話がありました。また、「コロナ禍である今、自主的に学びの場を見つけて講演会等に参加し、自身のスキルアップに努める」こと、「情報交換ができるような仲間を見つけて輪を作り、情報収集のためのネットワークを張り巡らす」ことが自己成長につながるというお話もありました。

②では、Zoomのブレイクアウトルーム機能を活用し、3つのグループに分かれて行いました。所属と名前の他に、「最近ハマっていること」をそれぞれ紹介し、それについて質問を行いました。はじめは緊張した空気感でしたが、少人数のグループで行ったため話しやすく、一通り自己紹介が終わったころには明るい雰囲気が生まれました。

③では、事前に収集された質問に対し、参加して下さった理事や先生方に回答していただきました。臨床で困っていることや職場では聞けないような相談に、端的で適切な回答をいただくことができ、実りのある良い機会となりました。

閉会の言葉では森理事より、「その人に、その場に、その時に作業は人を元気にする」とのお話をいただきました。作業療法を行っていくにあたって基本的な部分ですが、見落としがちな部分であると感じるため、しっかり念頭に置いて作業療法を実施していきたいと思いました。また、知識や技術が乏しい新人でも、患者さんの気持ちに寄り添い介入することでラポールの形成につながり、経験値のみでは賄えない、患者さんに満足していただけるリハビリが提供できることもあると学びました。

県内の新型コロナウイルス患者は減少傾向にありますが、まだまだ気が抜けない状態が続いています。しかし、このような県士会での交流によって会員同士のつながりを更に深め、富山県の作業療法の質を高めるために協力し合っていけたら良いと思います。

開催するにあたりご協力いただいた皆様、ご参加くださった皆様、関わってくださった皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

新入会員の横顔

1. 名前
2. 施設名
3. 出身校or旧所属施設
4. 趣味・特技
5. 富山のおすすめスポット
6. OTとして働いてみての感想
7. 今後チャレンジしたいと思っていること



- 1：南 太基
- 2：市立砺波総合病院
- 3：富山医療福祉専門学校
- 4：スポーツ観戦、音楽鑑賞、ゴルフ
- 5：天然温泉ゆらら
- 6：日々、勉強になることがたくさんあるなと感じています。
- 7：ジョジョとキングダムを全部見る

「病院－教習所間連携シート（脳損傷者用）」について

運転と作業療法委員会 佐々木舞、佐々井希、中林亜沙美
 （富山県リハビリテーション病院・こども支援センター）

運転と作業療法委員会では、令和元年度より県内の一部の自動車教習所（以下、教習所）と共同で「病院－教習所間連携シート（脳損傷者用）」（以下、連携シート）の作成を行ってきました。このたび、連携シートが完成し運用できることになりましたので紹介します。また、教習所で行える評価についても紹介します。

本シートの目的

病院の評価結果と自動車教習所の評価結果の「見える化」、自動車教習所との連携を図ること。

本シートの対象者

運転再開を希望する脳損傷者（脳卒中、頭部外傷等）

本シートの対象自動車教習所

富山自動車学園の6校（入善自動車学校、黒部自動車学校、滑川自動車学校、富山自動車学校、高岡自動車学校、砺波自動車学校）。その他の自動車教習所では使用できません。

連携シートの概要

A4サイズ3枚構成（1・2枚目を医療機関、3枚目を自動車教習所が記入）

「病院-教習所間連携シート(脳損傷者用)」

1. 基本情報

氏名:() 年齢:()歳 生年月日:()年 ()月 ()日
 性別:() (男性・女性) 利き手:() (右・左)
 診断名:() 発症日:()年 ()月 ()日 既往歴:()
 運転可能な家族:() (有・無) 同乗可能な人:() (有・無)
 服薬:☐降圧剤 ☐鎮痛剤 ☐鎮静剤 ☐抗凝固薬 ☐血糖降下薬 ☐抗てんかん薬
☐その他()

2. 運転情報(本人・家族からの聴取)

運転歴:()年 運転免許証有効期限:()年 ()月 ()日まで
 過去の違反歴:()回(時期:()) 内容:()
 過去の事故歴:()回(時期:()) 内容:()
 車種:☐AT ☐MT 種別:☐普通 ☐中型 ☐大型 自動ブレーキ:() (有・無)

3. 運転目的等 (該当する項目すべてに記して下さい)

目的:☐通勤 ☐仕事(営業・運送業・タクシーやバス) ☐買い物
☐通院 ☐家族・友人の送迎 ☐その他()
 頻度:☐1~2回/週 ☐3~4回/週 ☐5~6回/週 ☐毎日 ☐その他()
 時間帯:☐早朝 ☐通勤ラッシュ時 ☐日中 ☐夕方 ☐夜 ☐その他()
 運転時間:☐30分未満 ☐1時間未満 ☐2時間未満 ☐3時間未満 ☐3時間以上
 運転範囲:☐市内 ☐市外近隣 ☐県内全域 ☐県外
 運転環境:☐住宅街 ☐市街地 ☐農村地 ☐その他()
 悪天候時の運転:☐有 ☐無
 自動車改造について:☐必要ならばする ☐できればしたくない ☐わからない
 本人の思い:()
 家族の思い:()

4. 心身機能

運動麻痺:上肢() (有・無) (右・左・両) 下肢() (有・無) (右・左・両)
 失調:上肢() (有・無) (右・左・両) 下肢() (有・無) (右・左・両)
 感覚障害:上肢() (有・無) (右・左・両) 下肢() (有・無) (右・左・両)
 視覚機能:☐明らかに問題なし ☐問題あり(視野欠損・複視・単眼視・その他) ☐不詳
 言語機能:☐明らかに問題なし ☐問題あり(発話がやや困難・口頭指示理解がやや困難)

5. 日常生活動作

移動手段:☐歩行 ☐杖・器具等は不要 ☐杖・器具等は必要 ☐車椅子
 移乗:☐自立 ☐見守り ☐介助
 排泄:☐自立 ☐見守り ☐介助

6. 各種運転検査

①医療機関での評価 (医療機関名:()) 記入者名:()

項目	検査日	検査方法	判定				備考/コメント
			正常値	境界値	異常値	未実施	
病院で行う評価	認知機能						
	注意						
	記憶						
	非視覚空間能力(左・右)						
	視空間認知						
その他()							
教習所での評価	運転シミュレータ						
	実車評価						

※「病識低下」や「社会的行動障害」等、自動車運転に支障をきたしそうな言動が見られる場合は、コメント欄に記入をお願いします。

記入日:()年 ()月 ()日 担当医師(自署):

1枚目 1. 基本情報 2. 運転情報 3. 運転目的等 4. 心身機能 5. 日常生活動作

2枚目 6. 各種運転検査 (医療機関での評価)

- ・「病院で行う評価」には、主に各所属先で実施した神経心理学的検査結果を記入
- ・「病院での運転シミュレータ評価」には、使用した運転シミュレータの機種と評価項目(適性検査や走行検査など)を記入

- 6 -

3枚目 6. 各種運転検査（自動車教習所での評価）

- ・「教習所での運転シミュレータ評価」には、教習所で運転シミュレータを行った場合に記入
- ・「教習所で行う評価」には、視力検査や実車検査結果を記入

自動車教習所での評価について（3種類）

視力検査及びシミュレータ検査（60分）

視力検査（視野測定、夜間視力、動体視力）、シミュレータ検査、評価内容の告知・アドバイス

場内コースの実車評価（60分）

場内コースの実車走行、評価内容の告知・アドバイス（「運転可能」判定の場合、希望により路上コースの実車評価へ）

路上コースの実車評価（60分）

路上コースの実車走行、評価内容の告知・アドバイス（疾病の影響で運転免許証を失効している場合は、路上コースを使用できない）

※費用は各9,750円（税込）、自己負担になります。

②自動車教習所での評価（教習所名： _____、記入者名： _____）

項目	検査項目	検査方法	判定		コメント
			正常域（視野域）	異常域（全盲域）	
教習所での運転シミュレータ評価	視力検査	視力検査（視野測定、夜間視力、動体視力）			2-3：教習所・指導員 評価・告知・アドバイス （必要時）
	シミュレータ検査	シミュレータ検査			
	場内コースの実車評価	場内コースの実車評価			
	路上コースの実車評価	路上コースの実車評価			
	実車検査	実車検査			
場内コースの実車評価	場内	場内コースの実車評価			
	路上	路上コースの実車評価			

記入日： ____年 ____月 ____日 担当者（自署）： _____

© 富山県作業療法士会 2021

連携シートの運用方法

- 1 各所属先で医学的な運転の評価（神経心理学的評価やシミュレータなど）を行う
 - 2 医師と相談し、自動車教習所での評価の必要性を検討する
 - 3 自動車教習所での評価の必要性を対象者に説明し同意を得る（教習所の利用料金は医療保険外のため実費負担であること、本シートにて個人情報を提供することも含めて対象者に了承いただく）
 - 4 富山県作業療法士会のホームページから本シートを入手し記入する（最後に医師の自署が必要）
 - 5 対象教習所に担当OTが電話かFAXで連絡し、連携シートを利用した情報提供を行い、評価内容の選択や実施日時、使用車種等の打ち合わせを行う
 - 6 対象者が教習所で検査または評価を受け、教習所が本シート3枚目および評価表を記入する
 - 7 対象者が本シートや評価表を持ち帰り、医師やOTと情報共有する（本シートは各所属先で保管する）
- ※各所属先で本シートの使用許可を得てからご利用ください。

連携シートの入手方法

富山県作業療法士会のホームページの「県士会活動（会員ページ）」⇒「運転と作業療法委員会」ページより、本シートをダウンロードできます。

ただし、本シートのダウンロードには、Googleフォーム入力後に表示されるユーザー名とパスワードが必要です。



※これらの手続きは、運用状況を把握するために設けています。基本的に使用する毎にホームページよりダウンロードしていただきたく思います。ただし、各所属先で使用状況（使用者、使用時期）を把握し、県士会からの情報開示の依頼に従えるのであれば、複写での運用も可能とします。

※本シートは富山県作業療法士会の許可なく複製・改変することを禁止しています。

今後、連携シートの運用状況や医療側・教習所側の問題点を確認しながら、修正していく予定です。今回作成した連携シートが、皆さんの自動車運転再開支援の一助になれば幸いです。

令和3年度災害情報伝達訓練結果報告

災害リハビリテーション委員会 アルカディア氷見 高林 一彦

会員の皆様には、災害情報伝達訓練（以下、災害訓練と略す）に毎年、参加協力していただき、大変感謝しております。

今年度で5度目となる災害訓練は、今年も9月25日(土)11時過ぎに、会員に災害発生をメーリングリスト（以下MLと略す）にて発信し、翌々日の19時をもって情報伝達を締め切り、終了しました。

訓練時、昨年度のMLの登録率が35%に対し、今年度は51%にまで上がっておりました。

昨年度は、ML登録率が低く、連絡者数も少ないこともあり、病院・施設の被害状況把握率も過去最低（44%）の結果に終わってしまいました。

したがって、今年度は病院・施設被害状況把握率を上げることを一つの課題として取り組みました。方法として訓練前の告知に、昨年度連絡のあった病院・施設を公表することで、連絡のなかった病院・施設への連絡のお願いをさせていただきました。

一方で仕事とプライベートを分けるためにもあえてMLに登録しない方もいるという話を度々伺っておりますが、そのような方に災害メールを転送して災害訓練に協力してくださる方もいました。

今年度の災害訓練の結果としましては、会員673名中195名（29%）から連絡をいただきました。ML登録者340名でML登録者の凡そ5割の方

から連絡をいただいています。（表1）

また、今年は昨年以上に様々な病院・施設勤務者から連絡をいただき、県内180の病院・施設にOTが在籍しておりますが、そのうち102の病院・施設勤務者より連絡をいただき、病院・施設の把握率は57%に達しました。病院・施設代表者による連絡網を使用してFAXしていた時の把握率が55%～60%（平成29年～令和元年）でしたので、その頃に並ぶ数字でした。（表1表2）

今後に関しましては、①MLの登録率をさらに上げていきたいこと②ML登録者の連絡率そのものを上げていきたいこと③ホームページからも被害情報入力ができることを繰り返し、会員の皆様にお知らせするとともにご協力をお願いしていきたいと考えております。

また、この情報収集は会員の皆様の安否及び県内の被害状況を把握することで、早急に士会としての対応を決定していく大きな判断材料となることを深くご理解していただきたいと思います。

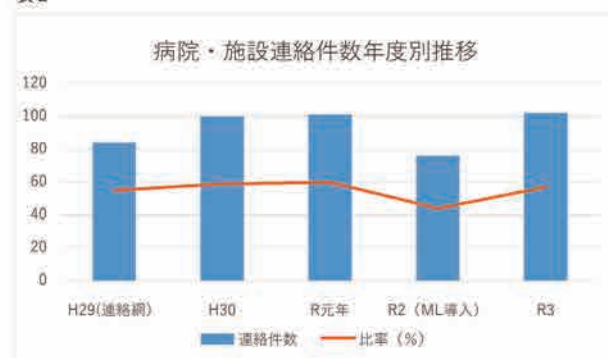
会員の皆様には、広く地域での防災活動にも目を向けることで、自分を守り、家族を守り、地域住民として作業療法士として災害に対してどのように備え、どのように活動していくべきかを共に考えていってもらいたいと思います。

表1

	総数	連絡数	比率(昨年度比率)
県土会員	673名	195名	29%(19%)
病院・施設	180施設	102施設	57%(44%)
病院・施設者会員	644名	189名	29%(18%)
自宅会員	29名	6名	21%(42%)
ML登録者	340名	195名	57%(53%)

令和3年9月末現在

表2



介護ロボットの開発・実証・普及の プラットフォーム事業(サンシップとやま)を活用しよう

富山県介護ロボットサポーター 齋籐洋平、桐山由利子、渡邊雅行、野田理央

みなさんは、厚生労働省が推進している「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」をご存じでしょうか。

この事業は、地域における相談窓口の設置、介護ロボットの評価・効果検証を実施するリビングラボ（開発の促進機関）を含む関係機関のネットワークの形成、実証フィールドの整備などを行なうことで、全国版プラットフォームを構築し、介護ロボットの開発・実証・普及の流れを加速化することを目指しています。（介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォームHPより引用。事業詳細は以下QRコードより）



富山県では、サンシップとやま内の富山県介護実習・普及センターがこの事業を担い、介護現場からの介護ロボットに関する相談や開発企業からの相談を受け付け、必要があれば、双方の取り次ぎなどを行なっています。

今期より、富山県作業療法士会の介護ロボットのニーズシーズ連携協調協議会に関わっている作業療法士が「富山県介護ロボット事業推進サポーター」として当事業に関わることとなりました。

サンシップとやまの介護・福祉用具展示場に足を運ばれた方は多いと思いますが、現在は、当事業に合わせ、介護ロボットの展示や試用貸出しも行なっています。（詳細は、下記QRコードより）私たち作業療法士からみても、大変有益で魅力的な機器が揃っています。

ロボットと言えば、マジンガー○やロボット8ちゃんなどを思い浮かべるかも知れません。また、介護ロボットが介護職員の負担を減らすために、何でもしてくれる、もしくは、そんなロボットができればいいと思う方はたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、現状の介護ロボットは、そんなに万能ではありませんし、誤った使い方をすると、危険を伴ったり、当事者の自主性を奪ったりしてしまう可能性もあります。

私たちは、介護ロボットの開発・実証・普及を通し、正しい使い方や介護ロボットがもたらすよい効果、介護ロボットを活用した創造的な介護のあり方についても広く提言していきたいと考えています。

まずは、みなさんの周りで困ったことがあれば、サンシップとやまに来て、見て、触れて、それでも難しい場合は、ぜひご相談や試用をしてみてください。そして、介護ロボットをみなさんと活用し、作業療法や介護の質を高めていきましょう。

プラットフォーム事業説明用
QRコード



貸し出し機器用
QRコード



当院の病床数は733床（一般665床、精神50床、結核16床、第一種感染症2床）で、都道府県がん診療連携拠点病院、第一種感染症指定医療機関、地域医療支援病院等、さらに、第三次救急を担う救命救急センターを有し、富山県のドクターヘリ基地病院に指定されています。また、総合周産期母子医療センターとして母体・胎児集中治療管理室（MFICU）6床、新生児集中治療室（NICU・GCU）29床を有し、精神科医療では救急・急性期および合併症の治療がされています。

当院のOTはリハビリテーション科4名、精神科病棟1名、精神科デイケア1名（非常勤）が勤務しています。今回は3部門を紹介したいと思います。

リハビリテーション科では、脳血管疾患（脳血管性障害、頭部外傷、脳腫瘍、神経変性疾患等）、整形疾患（脊髄疾患、上肢骨折、手の外科等）、がん疾患（乳がん、血液がんなど）、その他呼吸器疾患や熱傷など幅広い分野に対応しています。各科診療科の大部分は、急性期治療または手術が目的であり、次期の回復期リハ、地域リハによりよい機能・能力で繋げるべく、役割を担っています。最近の変化とえば、今年4月、処方が最も多い脳神経外科、脳神経内科病棟のあるフロアに「病棟リハビリ室」が設置されました。病棟内にすることでEV待ちがなく、急変時の協力も得られやすいという利点があります。病棟に設置されて以降、ベッドサイドで実施する割合が減少しており、離床に繋がったのではないかと考えています。急性期からそれぞれの生活を見据えた介入ができるよう、OT一人一人のレベルアップに努めたいと思います。

精神科では、統合失調症や双極性障害、認知症、産後うつ、アル

コール依存症等の患者さんを対象に作業療法を行っています。作業療法室は病棟フロアの一角にあり、毎朝ラジオ体操からプログラムが始まります。毎日香りの異なるアロマを焚き、集中力や情緒の安定を促しています。午前は集団作業療法、午後は個別作業療法、その他に患者心理教室やストレッチ体操、月1でハーブティーの提供も行っています。薬物療法に加え、十分な休息、そして作業療法を行い少しでも心穏やかに過ごせるよう、その人らしい生活の獲得に向けて一緒に考えながら取り組んでいます。

精神科デイケアでは、当院通院中の患者さんを対象に、色々な活動を通して社会生活能力を高め、集団生活に慣れたり就労に向けて準備したり出来るよう、医師・看護師・精神保健福祉士・公認心理師・作業療法士が一つのチームとなって関わっています。OTとしては、「色々」とあるけど、なんとなく今日来て良かったな」と少しでも思ってもらえるよう、楽しく、安心出来る場・活動を提供出来るよう努めています。感染対策上、行える活動も制限されていますが、対策を継続しつつ、利用者さんの目標に合わせた活動を再開・取り組んでいき、利用者さんが自発的に取り組める、利用者さん主体のデイケアを心がけていきたいと考えています。

最後に、毎年12月～1月（16時半～21時半）の間、当院正面の櫓にイルミネーションが点灯しています。当院の前を通られることがありましたら、是非ご覧下さい。



リハビリテーション科 作業療法室



精神科デイケア



病棟リハビリ室



精神科病棟 作業療法室



病院正面イルミネーション

会員リレーコラム



砺波誠友病院
水上 馨

県士会員の皆様こんにちは。砺波誠友病院の水上馨です。富山まちなか病院の古澤学さんからバトンを受け取りました。突然の連絡で驚きましたが私のことを思い出して声をかけて下さったことが嬉しく即座に引き受けました(笑) 2年後輩になる古澤さんとは犀潟リハビリテーション学院の学生寮で共に過ごしました。寮生活は2人部屋、トイレ・お風呂・台所は共同、掃除当番や寮の総会などもあり、かなり濃密な時間を過ごしていたと思い出します。とても懐かしいあの頃です。

さて“趣味や興味のあること”のお題で最近の自分の話題としては職場へ自転車通勤していることです。いつもは車通勤していた道を自転車の速度で通ると田んぼの稲の生育やあぜ道の野花が見られ、毎日違うその日の風、空、にお

いを感じます。進行方向がちょうど立山連峰に向かう道なので立山を仰ぎ見ながら清々しく有難い気持ちになって職場に到着します。

また以前より空を見上げる時間が増えました。日中の空も好きなのですが、日の出前、日の入り後の空の色は言葉で表現できないくらいに最高です。その空がうっすら明るい時間のことを魔法のような美しい空がみられるということで「マジックアワー」と呼ぶそうです。晴れた日は日の出前に外に出てしばし空を眺めながら早朝の澄み切った空気を体に取り入れています。日の入り後は刻々と移り変わる空の色のグラデーションに感動しています。水色、オレンジ、ピンク、グレー、紫・・・いろんな色が混ざり合って不思議ですよ。同じ色合いはなくこれも一期一会かなと思っています。とりとめのない話題になりましたが、空を見上げると心が洗われ元気になれる気がしています。

次のバトンは、同じく寮生活を共にした1年先輩(私よりずっと年下ですけど)で、学生時代から今も変わらずとても頼りになる、美しい瞳が印象的で笑顔の素敵なあの方にお渡しします。



済生会高岡病院
杉木 勇介

県士会の皆さん、こんにちは。新川老人保健施設の佐藤さんからバトンを受け継ぎ、今回のコラムを担当させていただくことになった済生会高岡病院の杉木勇介です。佐藤さんとは富山医療福祉専門学校21期生の同期です。私達が入学した年は、ちょうど初の3年制のカリキュラムがスタートしたばかりで、3年制のいわば1期生となります。初めは、みんな解剖学や生理学など、難しい分野の勉強ばかりで、苦労したのを覚えています。私は、24歳で学校に入学し同期から見れば年上でしたが、そんなことは関係なく仲良く接してくれて、3年間を楽しく過ごせたと思っています。そんな学生生活から卒業して作業療法士となり、早や3年目を迎えました。

私が就職した済生会高岡病院は、急性期病棟、

地域包括ケア病棟、回復期病棟が設立されており、私は3月から回復期病棟専従として業務にあたっています。様々な疾患や幅広い年代の患者さんを担当し、まだまだ知識が足りないと思うことは多々ありますが、今後も作業療法士として経験をたくさん積み、知識を増やしていきたいと思っています。

最近ではコロナ禍ということもあって外出する機会が減り、休日は家でのおんびりしていることが多いです。時折、ドライブに出かけ、海や山などきれいな景色を見るのが好きです。体を動かす機会が少ないので、今後はジムにでも行って体力作りをしようと考えています。

自分の中での楽しみは、プロ野球観戦です。コロナ禍の前は、直接球場に見に行くこともありました。コロナ禍が収束したのちは、また球場に足を運びたいです。今後も、仕事、プライベートともに充実した生活を送っていければと思っています。

最後に次のバトンは、かみいち総合病院の新鞍成美さんに渡したいと思います。新鞍さんよろしくをお願いします！

令和3年度 第5回理事会

日時：令和3年8月16日（月） 19時より
ZOOMによるWEB会議にて開催

出席者：齋藤、松岡、島津、丸本、吉波、藤井、森、渡邊、大平、能登、安本、桐山、丁子、小倉、橋爪

《報告事項》

1. 県士会関連事業
 - 1) 東海北陸学会
 - ・経過報告、理事会での承認事項など
 - 2) 地域アドバイザー委員会
 - ・8月24日 高岡地区で多職種を交えた研修会予定
 - ・9月25日 新川地区で研修会開催
 - ・地域包括支援センターへのパンフレット作成、配布
 - 3) 普及指導部
 - ・高校生体験会2回（南砺市民病院、県リハ）ZOOMにて開催
 - ・参加できなかった学生もいたため、同意、許可を学生に得て、YouTubeにてストリーミング
 - ・参加者は、OTになりたい意識の高い学生が想定され、概論的なものから、深掘りした内容や座談会の時間を長くするなどの工夫が必要。
 - 4) 東海北陸ブロック リーダー研修会
 - ・11月13日 ZOOMにて開催
 - ・派遣候補者を選出し、最寄りの理事より依頼
 - 5) 主任介護支援専門員 指定研修
 - ・地域アドバイザー研修会（2月頃）
 - ・東海北陸学会
 - 6) 介護ロボット
 - ・8月5日 富山大学高岡キャンパスにてミーティングおよび経過報告
 - ・富山県商工会加速度事業受託予定
 - ・齋藤、渡邊理事、野田氏参加
 - 7) 福祉医療実現会議
 - ・8月4日より10月6日に変更
 - 8) 身体障碍部会
 - ・9月28日 研修会 服部先生（富山大学）
 - 9) 運転と作業療法委員会
 - ・連携シートをホームページに掲載
 - ・パスワードを設定し、メーリング、県士会ニュースなどでお知らせ
 - 10) 福利厚生部

- ・10月9日 オンライン交流会
- 11) 福祉用具
 - ・今後、研修会で資料配布
- 12) 教育部
 - ・バーコード導入
 - ・責任者などの申請は、前任者の藤井氏に確認
 - ・MTDLPは、事例検討会を秋頃開催予定。基礎研修は、推進室で方法が決められていないため、協会に確認し開催。
- 2. 協会関連事業
 - 1) 47委員会
 - ・9月4日 齋藤会長、島津事務局長、他出席予定
 - 2) 補装具費支給基準告示改定に向けた書面ヒアリング
 - ・担当委員会にて回答
- 3. その他
 - 1) 富山県循環器病対策推進協議会
 - ・8月4日 齋藤会長出席。

《検討事項》

1. 県士会ニュースの個人情報掲載について
 - ・部長、委員長、周りの会員に確認し、9月の理事会にて報告、検討
2. 高校生体験会の日当について
 - ・報告書作成し、担当理事より理事会提出
 - ・日当は、イベントや協会関連の会議に支払い
 - ・支払方法は、まとめ払い、振り込みなど

令和3年度 第6回理事会

日時：令和3年9月13日（月）19時より20時
ZOOMによるWEB会議にて開催

出席者：齋藤、松岡、島津、丸本、吉波、藤井、森、渡邊、大平、安本、桐山、丁子、小倉

欠席：能登、橋爪

《報告事項》

1. 県士会関連事業
 - 1) 東海北陸学会
 - ・座長を理事より3名選出（候補として、丸本氏、能登氏、松岡氏）→了承
 - ・演題申し込み70数台
 - ・メディアでの広報活動検討
 - ・コロナ感染状況によっては、参加できないという士会員の声がある。
 - ・展示企画 コロナ関連の資料を他県士会へ要

■ 会員異動等

種類	氏名	旧所属	新(現)所属	備考
異動	林 壮拳	株式会社ハートフルケアタウンとなみ	特別養護老人ホームだいご苑	
異動	湊 果帆	富山赤十字病院	呉陽病院	
改姓	吉田 祥子			旧姓 谷越
改姓	岩坪 由理恵			旧姓 川東

- 請。JICA関連。資料のダウンロードも予定。
- 2) 地域アドバイザー委員会
 - ・8月24日 高岡地区で多職種を交えた研修会 (37名参加)
 - ・9月24日 新川地区で研修会開催予定。高岡地区の介護支援専門員参加あり。(39名参加予定)
 - ・地域包括支援センターへ介護予防資料とOT紹介パンフレット配布予定
 - 3) 東海北陸ブロック リーダー研修会
 - ・11月13日 ZOOMにて開催予定
 - ・安本理事(リーダー)、金木氏、森氏、佐賀氏、福田氏派遣
 - 4) 介護ロボット
 - ・9月6日 NEC、産総研・梶谷氏を交えた富山大学とのミーティング。
 - ・9月28日 サンシップとやま・宮原所長との会議
 - 5) 身体障害部会
 - ・9月28日 研修会講師 富山大学服部先生
 - 6) 福利厚生部
 - ・10月9日 オンライン交流会
 - 7) 普及指導部
 - ・健康と長寿の祭典中止となり、配布物の郵送もなし
 - ・OTマップを更新し、各施設に配布予定。
 - 8) 災害委員会
 - ・9月25日 メーリングを用いた県士会災害時連絡訓練
 - ・シェイクアウト訓練はメーリングにてお知らせし、参加は個人単位。
 - 9) 訪問リハ
 - ・8月31日締め切り 富山県士会のアクションプラン作成。専門職協議会にて協議
 - 10) 教育部
 - ・OT協会より臨床実習指導者講習会に関する資料。能登理事、梶先生に転送。
 - 11) 事務局
 - ・インターリハの研修会の掲載依頼あり。ホームページに掲載。
 - 12) リハビリ専門職協議会
 - ・9月21日、ZOOMにて開催予定
 - ・8月25日、8月29日 国会議員との意見交換会。メーリングにて会員に案内。
 - 13) 福利厚生部
 - ・ほたるいかマラソン大会開催予定。県士会が関わる給水ボランティアなし。
 - ・メディカルオンライン ダウンロード数が少ない(1人5題までに変更し広報誌で案内)
 - 14) 運転委員会
 - ・運転連携シートをホームページに掲載。
 - ・googleフォームで管理し、申し込み後、パスワードを発行、ダウンロード可能に
 - ・11月20日の研修会で案内
 - 15) 臨床実習指導者講習
 - ・PT、OTが互いの講習に参加可能だが、履修

内容に違いがある

- ・リハビリテーション学校協会も研修会を開催し、講習が進んでない県で開催予定
- 16) その他
 - ・コロナ禍における研修会参加費は、減額
 - ・将来的な事務局の場所を改めて検討
 2. 協会関連事業
 - 1) 47委員会
 - ・9月4日 齋藤会長、島津事務局長(半日)、塚田氏(一日)、島氏(半日)参加
 - ・協会員=士会員のため、来年度の総会で定款変更予定
 - 2) 地域包括ケア推進委員会
 - ・9月12日 大平理事、長森氏、赤尾氏、市森氏、熊南氏 参加
 - ・介護保険下でのOTの職域の確保、2023年度協会組織再編および第4次五カ年戦略、地域支援活動におけるOTの課題、制度、グループワーク(通所Cの推進とOT参画推進)が主な内容
 - ・県の実態把握(事業数とそれに対するOTの参加状況)、人材育成(活動と参加を意識したOT資質向上、取り組み紹介の共有)、各自治体のキーマンとの関係作りとOT効果の提示が必要

令和3年度 第7回理事会

日時：令和3年10月11日(月) 19時より

ZOOMによるWEB会議にて開催

出席者：齋藤、松岡、島津、丸本、吉波、藤井、森、渡邊、大平、能登、安本、桐山、丁子、小倉、

欠席：橋爪

《報告事項》

1. 県士会関連事業
 - 1) 東海北陸学会
 - ・経過報告、理事会での承認事項など
 - ・11月3日の状況にて開催方法を決定
 - 2) 広報部
 - ・士会事業で使用するカメラ購入予定
 - 3) 介護ロボット
 - ・介護ロボットプラットフォーム事業への協力依頼：齋藤、桐山、渡邊、野田、浜出、県リハ
 - ・ヘルスケア産業ニーズ・マーケティング調査の事前相談：齋藤、野田、福祉用具委員会対応
 - 4) 福利厚生部
 - ・10月9日 オンライン交流会
 - 5) 認知症委員会
 - ・11月20日若年性認知症の本人と家族の会；安本理事、野原氏 担当
 - 6) 災害委員会
 - ・9月25日 メーリングを用いた県士会災害連絡訓練
 - 8) 教育部

M 富山県義肢製作所 富山県補聴器センター

“歩く”
歩きやすさを追求した靴・インソール
快適に!
“聴く”
聞こえの世界が広がる 補聴器

快適に“歩く”“聴く”
をご提案する
富山県義肢製作所です。

義手・義足・コルセットの
製造を行っています。
歩きやすい靴・インソール
360°対応の補聴器の
販売にも力を入れ
皆様の QOL 向上を
サポート致します!

〒930-0042 富山市泉町1-2-16

TEL 076-425-4279 FAX 076-425-4587

E-mail t-gishi@cronos.ocn.ne.jp URL https://tpo-morita.com

営業時間 平日 8:30 ~ 17:00 土曜 8:30 ~ 12:00



リハノメ PT・OT・STのための
総合オンラインセミナー

「リハノメ」は PT・OT・ST のための、どこでも学べる
オンラインセミナーサービスです。臨床に悩む PT・OT・ST のために、
各分野の専門家が臨床経験や研究成果に基づいた知識・技術をお届けいたします。

1ヶ月見放題プラン

通常料金 3,080円が初回限定で…

980円 (税込)
お申込はこちら



豪華講師陣が
ご登壇!

作業療法士 / 目白大学保健医療学部
作業療法学科 准教授

佐藤 彰紘 先生

配信 動画 作業から考える食事支援の
ありかた など

作業療法士 / 山梨リハビリテーション病院
リハビリテーション部 副部長 兼
作業療法課長

山本 伸一 先生

配信 動画 脳卒中に対する臨床作業療法

さらに

法人様
向けプラン

のご用意もしております。
資料請求などリハノメ HP
からお問い合わせください。

リハビリテーションを
『かたち』にする会社

gene

〒461-0004 愛知県名古屋市中区葵1丁目26-12 IKKO新栄ビル 6階

お問い合わせは
こちらまで
お願いいたします

✉ seminar@gene-llc.jp

Tel.052-325-6611

リハノメ 検索





My Favorite 展

「好き」は私の原動力

2022.3.12

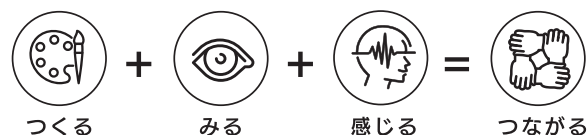
± 10:00-16:00

会場

富山県富山市神通本町 2 丁目 2-16
アグロスタワー富山駅前 1 階

- ・ヴィストキャリア富山中央
- ・ヴィストカレッジ富山駅前

(近隣のコインパーキングをご利用ください)



今回で4回目となる My Favorite 展～好きは私の原動力～。今年の会場テーマは、「つくる + みる + 感じる = つながる」。個性豊かな作品を通して感じる、人とのつながり、社会とのつながり。ご観覧、ワークショップ、みなさまの参加を心よりお待ちしております。

ご参加
無料

ご観覧は予約不要です。どなたでもご自由にお立ち寄りくださいませ。作品のご出展を希望の方は、下記事業所までお問い合わせください。(2022年2月13日締切)

就労移行支援事業所

ヴィストキャリア富山中央 ☎ 076-471-8773

VISST

- ・臨床実習指導者講習会、MTDLP基礎研修
予定
- 9) 事務局
 - ・全体会議の日程：11月10日候補。
- 10) リハビリ専門職協議会
 - ・組織再編し、3団体事業を集約。
 - ・訪問リハ委員会：鷺尾氏、地域リハ委員会：
候補 位寄氏（水橋通所リハ）、災害：高林氏
- 2. 協会関連事業
 - 1) お知らせに関して
 - ・医師業務のタスクシフトについて
 3. その他
 - 1) 杉浦財団地域医療振興賞
 - ・作業療法士が関わっている事業の候補より推
薦

編集後記

コロナ禍で入社し、早半年以上が過ぎました。
先輩方にも沢山助けて頂き、また自分自身が未
熟だと痛感することが何度もありました。

学生時代の友人に会いたい気持ちはありますが、
なかなか会えないのも事実です。

編集後記を書いている12月上旬、新たな変
異株ウイルスが発表され、不安が募るばかりで
す。行動の制限は続いていきますが、感染対策
を怠らず、自分なりに有意義な時間を過ごして
いきたいです。(N.S)

賛助会員名簿

(順不同)

会 員 名 (代表者)	住 所
学校法人金城学園 金城大学 医療健康学部 (学長 前島 伸一郎)	〒924-8511 石川県白山市笠間町1200 TEL 076-276-4400
医療法人社団いずみ会 (理事長 大西 仙泰)	〒939-8075 富山市今泉220 TEL 076-425-1166
富山リハビリテーション 医療福祉大学校 (理事長 青池 浩生)	〒930-0083 富山市総曲輪4丁目 4番5号 TEL 076-491-1177
株式会社 ウィル (代表取締役 黒田 勉)	〒939-0311 射水市黒河3075 TEL 0766-56-7099
株式会社 富山県義肢製作所 富山県補聴器センター (代表取締役 森田 忠浩)	〒930-0042 富山市泉町1丁目2-16 TEL 076-425-4279
株式会社 gene (代表取締役 張本 浩平)	〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵 1-26-12 IKKO新栄ビル6階 TEL 052-325-6611
ライフ・クリエイト株式会社 (代表取締役 北野 満) リハビリ・デイサービスおやべ リハビリ・デイサービスたかおか リハビリ・デイサービスとなみ	〒932-0814 小矢部市赤倉207 TEL 0766-67-2001

一般社団法人 富山県作業療法士会事務局より

メーリングリスト登録のお願い

現在、ホームページや施設宛での発送以外に、メーリングリストへ登録していただいた方に、多くの
情報を配信しています。

今後さらに、メーリングを活用し、会員への情報の多くをメールを通じてお知らせしていきます。

■対象

一般社団法人 富山県作業療法士会会員

■配信内容

- 協会や県士会が主催する研修会等に関するお知らせ
- 作業療法に関する情報（制度改定や最新情報等）
- 災害時の緊急連絡や情報提供
- 協会や県士会からの事務的な連絡
- その他作業療法に有用な情報 等



富山県作業療法士会
会員ML(メーリングリスト)登録
<https://forms.gle/o9XmsZc8cK7yyG8XA>

